

JAF公認 全日本ラリー選手権  
**ACKスプリングラリー**



最終ステージに向けて発進する新井敏弘。

撮影●坂本廣志  
報告●村井 豊

「2秒差、ですね、新井は速いですから」と再スタートした新井敏弘だったが、続く559、10で新井に逆転優勝を許してしまった。



新井に逆転を許し2位に敗れたものの、数回文章編去ランサーエボリューションに速くなってきた。残る課題はハイスピードコーナーだ。

# 新井敏弘 3勝目! 最終ステージで 奴田原文雄を逆転



「今回はカッコ悪かったでしょ（笑）」という新井だが、それでも4連続ベストタイムをマークする圧倒的な速さを見せた。

'97全日本ラリー選手権(第4戦)  
**'97 ACK  
SPRING  
RALLY**

■4月19～20日/大分240km



長丁場のラリーでドライバーのほうも燃料チャージ。新井は「2秒差ですか? 気にしてません。下りがあればね」と最後の勝負に向け余裕すら見せていた。



「ワークスにはかないません」達成感の表情にイラつき表情の松本誠は消化不良の5位。



久々に出場のアジアン・タイフーン片岡良忠。「先進国にはなじみなくて(笑)」とも位。



地元の王者。松本家が健闘してトップ10入り。全日本戦にも徐々に慣れてきて実力発揮だ。



柳田純彦は昨年より順位を落としたが、雪実に実力アップ。ポイントゲッターの7位入賞。



「よく体が持ってくれました。最後のほうは腕がしびれてハンドルが握せなかった」という山口祥。あまり悪くない休暇を完結し、絆盤高い上げての3位入賞は地元の喜地が――。



「サスペンション、LSDのセッティングはかなり進んだよ。ちょっとアンダーっばいけど、ダートなら大丈夫」と言った経部美津雄は、やや不満は残るが4位を得た。後半戦に期待したい。



「新井が速いなあ、何で?」「そりゃまだ若いもん」「おれと変わらないじゃん」「17」

## '97 ACK SPRING RALLY

今シーズンの新井敏弘の強さときたら、一体どうなってしまったのだろうか。これが、昨年初めて全日本戦Cクラスで勝利したドライバーなのだろうか。結果だけでなく、慣らしいほど自分のドライビングとインプレッサの性能に自信を持っている、

「ターマックは難しいけど、ダートのSSをいっぱいやってくれないですかね。下りのダートだったら絶対に負けないんですけどね」と言っているのだから、開幕戦で西尾雄次郎のミスとはいきれないミスで今シーズンの初優勝を飾るが、続く第2戦では白らのドライビングミスで社団法人クラッシュ。並のドライバーなら、ここで勝負運を失ってしま

るところだが、新井は違った。第3戦では勝負どころのターマックの連続SSでブッチぎ逆転優勝をさらってしまった。

そして迎えた今回、第4戦ACRKSスプリングラリー、2秒差の2位で最終ステージに入ると、2つのSSだけで逆転し、あとは安全圏まで逃げきった。

今回は本当に運が良かった、これまでラリーをやってきて、こんなにヘタな運転をしたことはなかったですよ。大満(敬夫ナビ)さんにかなり怖い思いをさせちゃった(苦笑)。ルマがちょっとということも聞いてくれなくて、途中で大満さんが「代わろうか」って言ったほどでした(苦笑)。よく最後まで(集

ま)力が持ってくれた。

そんな状態で、決して調子が悪くなかったと田原文雄に7秒差をつけての優勝。これで1戦して3勝、勝率は実に7割5分だ。セッティングがマッチしてなくて苦戦したが、それでもフィニッシュラインまでインプレッサを運んだ。結果、優勝がついてきた。こういう難い方ができるようになった新井。次は従来のモントレーだけに、金子繁夫の持つ年間最多勝に並ぶ可能性も高くなった?

(結果と詳細は132ページ)



ペールを脱いだラックの秘密兵器。前哨戦、練習は完璧ペースだったが、本戦以降に期待。今回は強敵のエントリーが集まり、オートボリスのパドックは活気にあふれていた。



ついにきた！「ACKからですよ」との劇団の公約どおり、原口真が今季初優勝を飾った。Bクラスは毎回勝者が替わる混戦模様だ。



「ミスコースさえしなければ」とはB3位の小林康弘。そこで5点を失わなければ、練習の練習を抜いて2位だったのに。無念。(2)



「やっとリタイヤ癖が抜けたね」と藤田豊は久しぶりにフィニッシュまでたどりついてB2位をゲット。シリーズ後半に向け巻き返しを誓った。



「着実に着実に…」を実践する森博喜は、今回もポイントゲッターのB 6位入賞を果たした。



「かなりうまく走れるようになったんですけど」と増村淳。得意のACKでB 5位は不満。



「ダートのラリーではこんなもんでしょう」と2戦連続優勝はならず松井孝夫はB 4位。

## '97 ACK SPRING RALLY



今季の東津原豊は昨年のワッパンを鳴らすかのように絶好調だ。今回もサーキットで平塚ミラに先行されたが、仮てずにダートで逆転し3勝日。



サーキットで平塚に続いた島田雅道だったが、ダート区間で徐々に遅れA 4位にとどまった。



守屋敏昭は荒れたダート区間でヴィヴィオの優位性を発揮してステアディに走りきりA 3位。



サーキットでの丁寧な走りは、さすが平塚。荒れたダートはミラにはきついか。A 2位。

SATISFACTION!

隠れたウェポンに潜む性能

**ABRIG**  
BRAKE PAD



株式会社 ブロンコ・バスター

〒350-02 埼玉県蕨市御所町6-27-11  
TEL.0492-87-9622 FAX.0492-87-9620



Cクラス上位入賞者。左から2位に入った飯田源文雄/小田切順之、優勝を飾った新井敏弘/大瀧敏夫、3位に入った山口博/吉谷公美洋。



Bクラス上位入賞者。左から2位に入った藤田豊/兼田満彦、優勝を飾った原口真/木室圭一、3位に入った小林康弘/渡辺文明。



Aクラス上位入賞者。左から2位に入った平塚忠博/黒田正彦、優勝を飾った栗津原豊/高橋昭彦、3位に入った守屋教昭/小花駿也。



# だれか新井を 止めてくれ!

サーキットステージでは西尾雄次郎が最速だった。ダートの林道SSに入ってリードを奪ったのは奴田原文雄だった。しかし、表彰台の中央に立っていたのは、またしても新井敏弘。セッティングが合わないと言いなから、ここ一番できっちり決める「強さ」を、いつ、どうやって身につけたのだろう。全日本チャンピオンを取ってWRCCへ……。新井のシナリオは完成間近だ。(村井豊)

## 新井の強さの「秘密」は何か

今シーズン、4戦が消化してSSのトータル本数は41。そのうち、新井敏弘がベストタイムを記録したのは10回。セカンドベストは25。サードタイムも20回。合計して実に30回SSを教える、そして全国のACCスプリングのリーダーの勝利で4戦4勝。シリーズが始まる例、ここまでは新井が快走しようとは、だれが予測できなかったらうか。

「いまの新井は速さだけを追求して、たれよりも速く走ることが目標なんじゃないかな。若いころはそれもいいと思う。オレも、あの年代のころはそうだったな。でも、それでも物足りなさが目立つ。だから、昨シーズンはすべてがうまくなるといって、思ったよりも速い新井が速いと思いがちだった。その逆もあったしね。でも、そういうところがあるから、オレと比べると、新井は速い。でも、オレも、それでも物足りなさが目立つ。だから、昨シーズンはすべてがうまくなるといって、思ったよりも速い新井が速いと思いがちだった。その逆もあったしね。でも、そういうところがあるから、オレと比べると、新井は速い。」

'97全日本  
ラリー  
第3戦

# ACKスプリングラリー 詳報

# 次戦は冠のチャンピオン

「状況があつたとしても」  
「結果は出たものの、昨日  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕、シロースコはいいドライバー」  
「、取りこぼしはなかったのだ、



**4戦して3勝——強い新井敏弘がまた勝った！  
残る興味は「いつ決めるか」「年間最多勝」だけ！**

「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に

「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に

「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に

全日本ラリー選手権ドライバーポイント (選手別ポイント)

順位	ドライバー	チーム	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	合計
順位	ドライバー	チーム	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	合計
1	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
2	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
3	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
4	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
5	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
6	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
7	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
8	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
9	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
10	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
11	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
12	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
13	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
14	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
15	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
16	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
17	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
18	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
19	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400
20	新井 敏弘	インフレッサ	100	100	100	100	400

「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に

「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に  
「僕はドライバーの経験が豊富に





順位	車名	ドライバー	チーム	車種	サーキットタイム					合計	順位	タイム									
					1st	2nd	3rd	4th	5th			1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th
1	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	1	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
2	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	2	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
3	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	3	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
4	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	4	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
5	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	5	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
6	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	6	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
7	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	7	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
8	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	8	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
9	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	9	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7
10	トヨタ	佐藤	トヨタ	トヨタ	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	5:13.2	10	1:14.4	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7	1:17.7

「結果はいきなり、切りすぎはダメなんです。タイムを出しためには我慢しない、ラリー前にターマックのテストをして、いろいろならドライビングを試してタイムを計測したら、ドライビングに慣れたら、だから第2ステージは我慢、我慢でして」

と事しなげに言っていた。この結果、勝負どころの連続ロングSSを前半はブックをきり、後半はマニクしたのだ。

昨年のセントレーのレポートで、新井のドライビングのバリエーションが広がり、それが強さにつながる目も近い、と書いていた。だが、従来のドライビングを殺してまで、タイムを追求する走りをする切り替えられる、とは予想しなかった。新井がインプレッサに乗り替えたとき、あまりの特性の違いには色んながらも、

「オレにはWRCという目標があったから、投げ出すわけにいかない。どんなにカッコ悪くても、その状態でタイムを出せる走りを目指した」

という新井の戦いぶりこそ、ドライバーとしてこなないだろうが、兩人未だの連続を達成した偉大なチャレンジと同じに戦うのは、まだ早いかもしれない。だが新井が、勝つためにドライビングをきめて、連続半歩をしたことが強さにつながっているのなら、自分のドライビングにこ



サーキットで7秒のリードを奪った新井はハイアベテミスし結局リタイア

だわらずタイムを追求する「しぶとさ」が生まれたなら、今シリーズの新井の活躍も納得できるように思える。

今回のACCでもゴール後まず飛び出した。言葉は、

「クルマなりに走らせました」  
 だったのだ。今回の新井は、序盤からマシンセッティングが合わずに悩んでいた。

「なんでこんなに曲がってこないのか。なんでこんなにヘタクツなんだ」

と珍しくサービステーションを空らせていた。アンダーステアが強く、テールスライドさせると流れが止まらない。キヤロッセ流のマシンセッティングへの戸惑いがあったのだろう。それで

## 奴田原の秒シリーズで最終へ

新井はかりが目立った今回のACCだったが、展開はシビアだった。ラリーはオートポリスのサーキットステージからスタート。周辺の林道を使い、合計14SS、約14回（そのうち公道コースは約14回）が戦いの舞台となった。

まず、サーキットステージで気を吐いたのが西尾だ。見事なまでの慣性4輪ドリフトでサーキットを走り抜ける。3本のSS

も「クルマなりに」に走り、SSトータルトップで走りきってしまったのだ。

いままでの新井だったら、彼がいうほどマシンがコントロールできないと、イベント途中で集中力を失い脱落していたはずだ。このあたりが、今シリーズの新井の成長を象徴しているのかもしれない。

この本が書店に並ぶころには、すでに彼の得意なモンテレーの結果が出ている。過去、年間3勝を挙げたドライバーは80年の金子繁夫だけ。4勝を挙げたのは81年の山内伸興、86と90年の笹部英洋だ。新井が歴代の偉大なドライバーと肩を並べることができれば、楽しみだ。

を3本ベスト、セカンドベストも回ってブツもぎったのだ。彼に聞いたのは、

「やっとセッティングが決まりました。まだですけど、またまたね」という後述で、ミニサーキット（レイクサイドコース）でのベストタイムはか好タイムを並べ、西尾に7秒差とやや離されたが、一番手をゲット。彼に1秒差と奴田原と新井が並んだ。以下、加勢裕一、大嶋浩夫が1秒

ずつの差をつけ、2秒ずつ開いて勝田彰彦、山口隆、4秒差で両方のMCAで活躍した西園勢の竹下俊博と河崎忠一の間だ。

サーキットを出て第1ステージ後半が始まると、いきなりハブニングがトップの西尾を襲った。ハイアベア区間で1秒もの減点を受ける。8位まで転落してしまったのだ。

「すべて私の責任です。ゴメンなさい」

としよげかえる山口朝子ナビ。さらに、ここから奴田原、新井

のスタートが始まったもののだから、西尾は差を縮めるどころか徐々に離されてしまった。順位は4位まで後戻したが、今度は第2ステージでバンク。運悪く、続くクリ区間は交換時間が稼げない設定だったため、「暴走を繰り返して」リタイア届を提出した。これで西尾は2戦連続リタイアだ。

トップ争いは、一時トップになった後部を、奴田原と新井が引きずり降ろしていた。3連続ベストの奴田原がトップを奪取

新井は2秒差の3番目で最終ステージを迎えた。「ようやくエポIVがよくなってきた。ただ、まだトラクションがなくて、トップアタラスにはや」と追いついて

「奴田原、という奴田原に対する新井も、

「クルマがいうことを聞いてくれない。なんでヘタクツなんだと思っただ」

それでも3位後部には1秒差

がついている。1番下以下は1秒差に山口と大嶋が続く。後述で、一騎打ちになったトップ争いは「勝てたのが信じられない」と新井本人がいうほど驚いた走りだった。SS9から3連続ベストタイムをたたき出す激走リードを1秒差まで上げたところまで勝負の行方が見えた。奴田原はSS13、14でベストをマークして意地をみせたが、またしても勝負どころでの新井の速さが目立つ結果になってしまった。

散れた奴田原は、「あとはデフ（LSD）のセッティング。なんとかトラクションを向上させれば、この状態でも勝負ができる。新井にばかりいい思いをさせてはられないですからね。次（モンテレー）はしようがないけど、北海道（フリースタックとミカセ）は絶対に負けませぬよ」と悔しそうに会場を後にした。3位争いは、「後半の遅れた林道で、エンジン特性の差が出たね」という後部が後述、山口が2秒差転して銅メダルを得た。シリーズポイントでは新井が3勝で300ポイントを獲得。もちろんリード。今回の2位で奴田原が180点になり、170点のままの西尾を超越している。



「新井にばかりいい思いはさせてはられない」と闘志を燃やす奴田原

GARAGE FACTORY  
TONBO HOUSE

オリジナルパーツ



●NewアルトワークスR用パーツ

- ①アポロールグージ(インダッシュ) 定価 ¥80,000
- ②SPLアンダーガード(リブ3本) 定価 ¥65,000
- ③ショックアブソーバー  
フロント用 定価 F ¥23,500/1本  
リア用 R ¥13,500/1本
- ④F&A 製造ピストンset (65.5mm) 1set 定価 ¥80,000
- ⑤強化DILUリブバルブ強化s/p 定価 ¥2,000

おすすめ品コーナー

アルト(CM22V, HB21S)用  
●7000LSD/2XINZ-3 定価 ¥90,000



CA4A-CJ4A用マフラーコート 定価 ¥30,000

C-1アルトコンプリートカー 200万円〜  
☆ダートトライアル用改造車製作  
あなたの予算により製作・改造  
致します。

GARAGE FACTORY  
TONBO HOUSE

〒339 埼玉県岩槻市裏慈恩寺1029  
TEL.048-795-2910  
FAX.048-795-2920



狙いどおりACKを制した原口

Bは原口真が今季初優勝!

今シーズンに入って混戦が続くBクラスは、毎戦勝者が変わっている。今回、4人目のウィナーが生まれた。それは前戦MCAでの敗戦後、

と話していた原口真だ。

サーキットステイジは、前戦優勝の松本孝夫が、

「タイヤ(ヨコハマA1333)がマツチしていたし、1車に皮剥きしてしまいましたが、そういう地道な努力が実を結んだ、予定どおりです」

というように、いSSでベスト、サーキット内の速給道を使ったSSでも原口に1秒差をつけ、

トータルクラス下の盟友野村正之に1秒もの大差をつける完璧な内容でトップに躍り出た。野村以下は混戦で、4秒差のなかにも山田浩史、藤田豊、谷口智一、増村隆、森田真、原口ら7人がひしめいている。

だが、サーキットステイジを後にすると、松井のペースが落ちた。さらに菅野が思

路でエンジン部品をヒット、トラブルが発生して戦列を離れてしまった。

ここで急浮上したのが原口、小林康弘だ。SS6を小林、SS7を原口、SS8は増村がベストをマーク。ただ、増村はSS9は好調だが、ラリー区間が合わず下位に低迷していた。

しかし、混戦は1スナまでだった。1スナは抑えたけど、1スナは相俣の上」といっていた藤田の猛追はあったが、それ以上に原口が猛烈に追いついてきた。2位藤田に1秒の差をつけて今季初勝利を挙げ、小林にも大差と迫るシリーズ2位に浮上した。

Aクラスは栗津原豊が今季絶好調。すでに開幕戦、第3戦で優勝を飾り、第2戦も苦しみながら4位をゲット。強い栗津原

をライバルにアビバルしている。そして今回もストロップ・ジ・アワを成し遂げるドライバーはいなかった。

サーキットステイジは、「ミラの特性が合っているように」

と栗津原が言うように平塚忠博、島田雅也が先行し3番手。

だが、平塚に7秒、島田に2秒の差は、ないに等しかった。S

S前に置かれたハイアベ、R、Aが乗れな)区間で、栗津原は唯一とりこケタ台の3秒遅れというスローバードライビングで、あっさりしと進み、平塚に2秒差をつけてSSの待ち受ける主戦場に向かった。

だが、ここでは平塚が踏んばった。SS7で1秒差のベスト、SS8は同秒と、やすやすと栗津原を抜かさない。両車の差は5秒で最終ステイジへ突入した。



今季3勝目をゲットした栗津原

電れた路面によるダメージを避けるため、抑えたドライビングを続けていた栗津原は、最終ステイジに入ると一気にスパー。SS9、10、11と3連戦ベストタイムをマークして平塚を突き放した。SS12は平塚に1秒遅ったがSS13、14もベストで締めくくった。

「リザルトの数字や、皆さんが思っている以上に苦戦した」とは口が合わず、今季3勝目を飾ってしまっ